

農業と福祉が win-win の関係となる農福連携を考えよう

～若手女性農業者セミナー視察研修会を“のりくらり”で開催～

印旛農業事務所改良普及課 令和4年7月20日発

農業事務所では、若手女性農業者の経営参画推進を図っていますが、労働力不足や作業技術の習得が課題です。そこで、7月13日、木更津市のNPO 法人一粒舎(ブルーベリー園のりくらり)で「農福連携」と「GAP」をテーマとした視察研修会を開催しました。新規就農者を含む5名の女性農業者が参加し、学びました。

のりくらりは、「福祉」、「農業」、「高齢者」、「地域(環境)」の連携により、地域での信頼も厚い就労継続支援B型事業所で、独自の講習会などで作業に熟達した利用者を育成し地域の管理作業を担っています。「農福連携は障がい者向きの仕事を作るのではなく、まず相談を。双方が win-win になるように。」という飯田理事長のお話に、参加者からは「新規就農し困難を感じていたが勇気をもらえた。お互いが良くなるような連携を考えたい」等の感想がありました。農業事務所では、今後も若手女性農業者の経営参画を支援します。



農福連携の可能性について考えました



GAP の工夫が随所にある選果場を見学